

## 松本市基幹博物館 1階活用市民会議（第3回資料）

委員名 益山代利子

次の各項目について、委員の皆様のご意見を自由にお書きください。

① 1階パブリックスペースの具体的な活用案（事例等を含む）について
1. 市民のアート作品や他の博物館のコレクションを定期的に展示する。 2. 松本城のボランティアガイドに常駐してもらい、博物館でガイドの受付ができる様にする。 3. QRコードでアプリをダウンロードし、市内の観光スポットで音声ガイドが聞けるようにする。音声は市民ボランティアに協力していただく。
② ミュージアムショップ・ドリンクコーナーについて
1. ショップに置く商品は、定期的に街中の店舗に協力してもらい変化をつける。 2. ドリンク施設では、市内の食品が飲物、スイーツなどが買えるようにする。
③管理運営に指定管理者制度を導入することについて

8月20日（金）までに下記アドレスへデータ提出してください。

事務局担当者アドレス：sou\_hironaka@city.matsumoto.lg.jp

次の各項目について、委員の皆様のご意見を自由にお書きください。

① 1階パブリックスペースの具体的な活用案（事例等を含む）について

人々が集い、松本の有形無形の様々なものを繋ぐHUBの役割を期待したい。そのためには、ソフトコンテンツと、市民力、それらを活かすコーディネート力が重要となる。市民講座や習い事、料理教室、外国人向けの日本語教室や浴衣レンタルなど様々なネタが考えられるが、それらに係わっている市民が繋がり、市民による発信ができれば賑わいが生まれると思う。また、観光客向けの情報発信や、交流の場として松本丸ごとインフォメーション的な役割が果たせたら面白い。全体的なイメージとしては、市民サポートセンターと観光コンベンション協会のアップグレード版。具体的な例は控えるが、松本の市民力を最大限引き出した松本スタイルを構築できればと思う。

② ミュージアムショップ・ドリンクコーナーについて

ショップ：博物館内のショップである事を考慮すると、松本地域の特産品（食品・物品等）や伝統工芸品などが並ぶことが望ましい。オリジナル商品の開発や、美術館関連の商品、クラフト系の商品など、他の店との競合を避ける意味でも、松本市の顔となると同時に博物館ならではの商品構成が必用。

ドリンクコーナー：健康をテーマに、地元野菜や果物を使用したジュース、スムージー等の他、紅茶やお茶、コーヒー等のドリンク。食は、サンドイッチやパン等の軽食や、ワッフルなどのスイーツ。特に外国人のニーズも踏まえ、ヴィーガンメニューも面白い。これらは、市内の店の商品を委託販売にて扱う事もできる。

③ 管理運営に指定管理者制度を導入することについて

公共施設として発信したいものと、売れるものが一致するわけでは無いため、指定管理に関しては慎重になるべきと考える。上記のどちらもソフトが鍵となるため、ソフトを含めて指定管理に委ねるとするのはかなりハードルが高く、利益が出なければ売れるものへシフトする可能性が高い。特に販売物に関しては、販売場所の提供とお客様とのやり取りぐらいの方が面白いと思うが、事業としては収支が合わない可能性がある。これらの懸念が解決でき、あくまでも事業者の収益事業だけではなく、社会事業として手の側面も理解してできるのならば、指定管理でも良いと思う。NPE（Non-Profit Enterprise）といった概念を持った事業者が望ましい。

8月20日（金）までに下記アドレスへデータ提出してください。

事務局担当者アドレス：sou\_hironaka@city.matsumoto.lg.jp

## 松本市基幹博物館 1階活用市民会議（第3回資料）

委員名 赤沼 留美子

次の各項目について、委員の皆様のご意見を自由にお書きください。

**① 1階パブリックスペースの具体的な活用案（事例等を含む）について****①市民学芸員さんの居場所**

居場所があれば集まって話し合ったり、作業できたり活性化するように思います。別に会議室でも構わないのですが、ただパブリックスペースにそういう場があることで学芸員さんの張り合いにつながったり、来館者ににぎわいが伝わる効果もあるかと思えます。

**②こどもコーナー**

世代（歴史）を超えて楽しめる遊びに、けん玉・ベーごまなどがあります。懐かしい昔からのこども遊びのコーナーがあると、ご年配の来館者も童心に戻って楽しんでいただきつつ、今どきのちびっ子とも交流できて楽しめるかも知れません。

**② ミュージアムショップ・ドリンクコーナーについて**

①軽食は館外にキッチンカーが寄れるようにして館周辺や軒先にて食してもらえるようにできないでしょうか。（背景として、コロナ禍で県からの補助金も出てキッチンカーがにわかに増えましたが、案外行ける先は少なく困っています。）

**②ショップ**

クラフトの街らしく、クラフト作家の展示販売など。

**③ 管理運営に指定管理者制度を導入することについて**

指定管理制度に賛成です。

ただし、

- ・マーケティング→それ専門
- ・施設管理→それ専門

と分けていただくとよいかとおもわれます。

8月20日（金）までに下記アドレスへデータ提出してください。

事務局担当者アドレス：sou\_hironaka@city.matsumoto.lg.jp

【赤沼委員提供】 わらべ館（鳥取県鳥取市） 施設写真



【赤沼委員提供】 わらべ館（鳥取県鳥取市） 施設写真



松本市基幹博物館 1階活用市民会議（第3回資料）

委員名 大槻 久

次の各項目について、委員の皆様のご意見を自由にお書きください。

① 1階パブリックスペースの具体的な活用案（事例等を含む）について

○高校生～大学生くらいの年代の若者が集まって、博物館関連や松本にふれたことを原則とした内容で、企画制作したりその準備にあたる場。また、作品等を短期で入れ替えて展示できる発表の場とする（他館事例の県立美術館や鉄道博物館のようなこと）。若者にとって、会話もできる図書館学習室・そこに行けば学びの友を増やし顔見知りになれるサークルフロアのような場所になればと思う。そのために、市職員や地域の方がよき相談役になることと、集まって動いてもらう企画を高校や大学専門学校等に最初は積極的にもちかけることが必要。

② ミュージアムショップ・ドリンクコーナーについて

○ショップは、街を歩く人（特に女性観光客）が入って手にとってみたくなるものをウインドーギャラリー前面に並べるなど、誘客の引き金になる内容・配置・雰囲気にする。学術的なものは控えめに置く。松本市美術館は、大変参考になる。

○ドリンクコーナーには自販機は置かない。缶等の後始末や使用後の清掃がきちんとなしないと、入って休みたいという気持ちにならない。メニューを少なくして、きちんとした飲み物（売りの商品）を出す店（店員は一人）にする。来客を見込めない時期や時間・曜日は開放しない。ただし、そのことで、館内の雰囲気が暗くならないように工夫する（人目をひくデザインのパーティションが置かれる。インスタ映えする作品を出すなど）。

③ 管理運営に指定管理者制度を導入することについて

○先日の会でも出された意見の通り、大きく分けて3つの内容全てを一つの会社？で受け持てるのであればいいですが、心配でもあります。

○ただ、ショップやカフェ運営については活気をもたらす可能性を感じます。また、施設維持管理をきちんとしてもらえるのであれば、学芸に市職員が専念できてよいと思います。

8月20日（金）までに下記アドレスへデータ提出してください。

事務局担当者アドレス：sou\_hironaka@city.matsumoto.lg.jp

次の各項目について、委員の皆様のご意見を自由にお書きください。

<p>① 1階パブリックスペースの具体的な活用案（事例等を含む）について</p>
<p>【くつろぎ、学び、楽しむ市民の姿を、まずはうみだす】アーティストの滞在制作&amp;ワークショップ（ものづくり、コミュニケーションに関わる作家あるいは、人類学・社会学的観点から活動する、博物館との親和性の高い作家を招聘。狭義の美術作家は美術館に任せる）。ネクスト・ミュージアム（将来の博物館資料について、展示しつつ語り合う企画）、探求学習の支援コーナー、大学の公開授業、博物館実習との連動、周辺博物館の紹介（貞享義民記念館など市外にも目を向ける）、市内のクラフト作家・デザイナー紹介、OMFのアーカイブ&amp;視聴コーナー、ファブラボ、空き家活用講座（リノベーション講習会）、Zine作成、映画上映（本格的な上映は困難？）、市民提案を受け入れる仕組み（運営協議会など設置）</p>
<p>②ミュージアムショップ・ドリンクコーナーについて</p>
<p>所蔵資料・松本に直接関わる書籍・グッズから、クラフト系グッズを介して、そのままカフェにつながるような空間構成を（例：アーツ前橋1F）。 市内のブックカフェ、クラフト系ギャラリー&amp;カフェを参考に（あるいは業務委託？）。 信毎メディアガーデンのスクエアやテラスと感覚的に近い場を提供し、柵形広場経由のオープンな都市空間のネットワークを創る。 松本市美術館のショップおよびレストラン部門との連動ないし棲み分けについて意識的に。 城の敷地内に設置されるショップの規模で、ミュージアムショップの性格はかなり変わるのでは。</p>
<p>② 管理運営に指定管理者制度を導入することについて</p>
<p>（1）館全体として、市美術館の運営（管理部門：指定管理、学芸部門：直営）を参考にすることはありえる。その場合、1階の学芸・教育普及事業は学芸部門の担当が良いのではないか（学芸の本務として向き合う。いずれにせよ専門職の追加配置は不可欠）。（2）あるいは、1階の全業務も指定管理の範囲とし、これを芸術文化振興財団が受けることも考えられる。この場合、同財団の実施事業の見直しが必要（施設管理を主とする現状から、総合的に文化芸術支援を行う組織へと発展させ、その拠点として、1階を活用する）。（1）は博物館軸を重視する立場。（2）は文化芸術のネットワーク構築を重視する立場。</p>

8月20日（金）までに下記アドレスへデータ提出してください。

事務局担当者アドレス：sou\_hironaka@city.matsumoto.lg.jp

松本市基幹博物館 1階活用市民会議（第3回資料）

委員名川船義嗣

次の各項目について、委員の皆様のご意見を自由にお書きください。

① 1階パブリックスペースの具体的な活用案（事例等を含む）について

- 1・現在大手事務所にある観光情報センターを新博物館1階に移転、新博物館、松本城、開智学校の入場券等を販売、市内観光の案内等を行い観光客の案内を行う。
- 2・南側歩道、東側空地利用し集客の為にイベント等を行なう。

②ミュージアムショップ・ドリンクコーナーについて

- ・販売時に欲しくなる図録等の開発、松本を代表する土産品等の販売も行なう。

③管理運営に指定管理者制度を導入することについて

- ・指定管理者に何を願うのか、企画運営迄願うとしたら現在の学芸員の位置付との関係等迄見直しが必要

8月20日（金）までに下記アドレスへデータ提出してください。  
事務局担当者アドレス：sou\_hironaka@city.matsumoto.lg.jp



次の各項目について、委員の皆様のご意見を自由にお書きください。

① 1階パブリックスペースの具体的な活用案（事例等を含む）について
<p>日常の一般来館に際して複雑な説明や制限を設ける仕組みは極力避け「いつも何かやってるね」「ちょっと寄って行こうよ」「何だか面白そうだね」と誰もが気軽に声を掛け合って気楽に立ち寄れるシンプルで解り易い場所の提供に努める事が最も重要。具体的にはジャンルを問わないミニコンサート・演劇や能楽・歌舞伎などのパフォーマンスを日替わり時間割で毎日開催する。また別の片隅では、松本てまり・松本民芸・ギター制作・七夕人形・松本かるた・信州味噌仕込み・そば手打・みずず 飴などの松本の伝統・文化に特化した物産制作を実演付きで紹介し、その傍らでの少人数体験スペースも確保する。これも日替わり時間割で毎日開催する。</p>
② ミュージアムショップ・ドリンクコーナーについて
<p>限られた僅かなスペースにショップやドリンクコーナー設置を云々する以前に、当施設の立地性も含めたそもそもの存在意義に立ち返って課せられた使命を考えると、本来の博物館としての役割以外に、郷土松本の歴史・文化・観光の情報発信拠点として、市街地や周辺の山岳・温泉リゾートエリアなど松本全域のポテンシャルのボトムアップを推進し回遊を促す役割を担っている。従って、博物館そのものの存在意義を曖昧にし、更に煩雑を招き兼ねないお土産・グッズ・飲食などの雑多な販売コーナーを殊更狭いスペースに詰め込む必要は全くないと断言したい。まるごと博物館の視点も踏まえ、民芸品・土産物・グッズは其々の物販、飲食は其々の飲食店へと各分野でのビジネスとしての専門性・充実を促し、面的に相互性のある賑わいの創出を促すべきです。休憩スペースとしては、現在市街地の賑わいづくりで取り組んでいる「街の縁側作戦」と共催し館外の敷地にベンチを設置する。</p>
③ 管理運営に指定管理者制度を導入することについて
<p>②と重複するが、新博物館を当該地へ誘致する事に因って付加される使命は、単に当館への誘客に努めるだけの問題ではない点を明確に認識しておく必要がある。専門性の高い複眼的な検討と決断が求められる事から、全部門の一律管理は難しいと考えられ催事企画管理・地域連携街づくり・スペース管理運営など部門ごとの複数のコーディネート(グループ)による組織管理が良いと思います。指定管理制度についての然るべきルールを承知していないので申し訳ありませんがコメントできません。何れにしても多角的な視点に立脚した管理運営が求められハードルは高いと言わざるを得ません。</p>

8月20日（金）までに下記アドレスへデータ提出してください。

事務局担当者アドレス：sou\_hironaka@city.matsumoto.lg.jp

松本市基幹博物館 1階活用市民会議（第3回資料）

委員名 渡邊匡太

次の各項目について、委員の皆様のご意見を自由にお書きください。

<p>① 1階パブリックスペースの具体的な活用案（事例等を含む）について</p>
<p>パブリックスペースを設置しようと計画した段階で色々出ているアイデアを確実に実行する。 市民が携わりつつ、博物館たるクオリティをいかに保てるか。</p>
<p>②ミュージアムショップ・ドリンクコーナーについて</p>
<p>例えば山崎貴さんにその辺全体をデザインしてもらえればオリジナリティあふれる物になると思います。観光客は寄りたと思います。インテリアデザインやソフトにもっと予算配分を。</p>
<p>③管理運営に指定管理者制度を導入することについて</p>
<p>指定管理者制度導入で1番危惧する事は地域との連携です。土着性の薄い組織が管理運営されると市民の宝が市民からかけ離れた存在になる事が考えられます。市役所や周辺町会との密な連携、地域の学校との繋がりも必須だと思っておりますので、松本の事を良く理解された方も深く関わる事が大事です。それと我々一般市民からしても博物館を指定業者に任せ切りにして関心が薄くなる事も問題です。どこか遠い存在に感じてしまう。やはり市民が肌感覚で携わり共に試行錯誤する事が大事ではないでしょうか？もちろん外からのアイデアも必要なので視野が狭すぎるのも良くないです。指定管理者制度を全て否定するものではないですが、いかに上記を担保するかが課題だと思います。</p>

8月20日（金）までに下記アドレスへデータ提出してください。  
事務局担当者アドレス：sou\_hironaka@city.matsumoto.lg.jp